

女性の依存症とその回復

アパクリニック 院長

肥田 明日香

女性の依存症

- 女性の依存症は回復が難しいといわれた時代
- 女性依存症ケアの進化
 - 女性自助グループ 女性依存症回復施設等の充実
 - 地域支援の充実
 - (保健師面談や訪問看護導入、子ども家庭支援センター利用など)
- コロナ過でのオンラインミーティングの発達

症例から学ぶ女性依存症

- アルコール依存症 1例
- 買い物依存症 1例
- 薬物依存症 1例
- 摂食障害

Aさんの場合

- 女性 （現在）37歳
- 埼玉県出身。父母と3人暮らし。父は大酒家 母は父のアルコール問題で長年苦勞している。
- 性格はごく普通の明るい性格。すこし神経質なところあり。
17歳より飲酒。20歳、22歳のときにアルコール性急性膵炎で内科に入院。
- 20歳より精神科にかかるも「人格障害」と診断された。
- 23歳 飲酒がとまらず自宅で大声をだしたり、死にたいと飛び出そうとするため家族が精神科に入院を勧めた。

経過

- アルコール病棟に入院。入院時は眼もうつろでふてくされた様子。
点滴による離脱治療を開始。2週間後表情は随分落ち着き、入院前とは別人の様子。お酒をやめて働けるようになりたいと
- 最初は入院中に一緒だった依存症仲間と自助グループに参加するが、数か月で中断。
- 2年後25歳時、片頭痛で使用していた鎮痛薬が止まらなくなり再入院。
- コンビニのバイトをしたりしながら30歳で地元の男性と結婚。
- 2年後妊娠
- 妊娠5か月のころ頭痛のつらさから鎮痛薬を使ったところやはりコントロールできなくなり情緒不安定、自宅で転倒するなどのエピソードあり。
- 大学病院の産婦人科に入院し、離脱の症状をケアしながら出産準備となった。

出産後

- 同居する母、夫の協力のもと依存症ケアをしながらの子育てがスタート
- 退院してすぐに依存症ミーティングを再開 診察週一回
- 現在まで 週一回のミーティングをかかさず、幼稚園の役員などを引き受けママ友をつくるなど社会活動にも活発に参加。

症例から学ぶ女性の依存症

- 女性の依存症は進行が速く、飲酒をスタートしてから5年で依存症に進行するといわれている。
- 飲酒による脳機能の低下から、情動不安定、衝動性、易怒性、記憶障害、約束が守れない、などの問題が起こる。人格障害など誤診を受けることもままある
- 依存症体質の遺伝
- アルコールによる身体的問題
肝障害 膵炎 糖尿病 高血圧 癌
- クロスディクショ
処方薬依存、買い物依存、ギャンブル依存、摂食障害、恋愛依存

症例から学ぶ女性の依存症

- 依存症と妊娠、出産、子育て
- 家族の疾病理解、協力がなにより重要
- 地域支援の導入　子育てのサポート

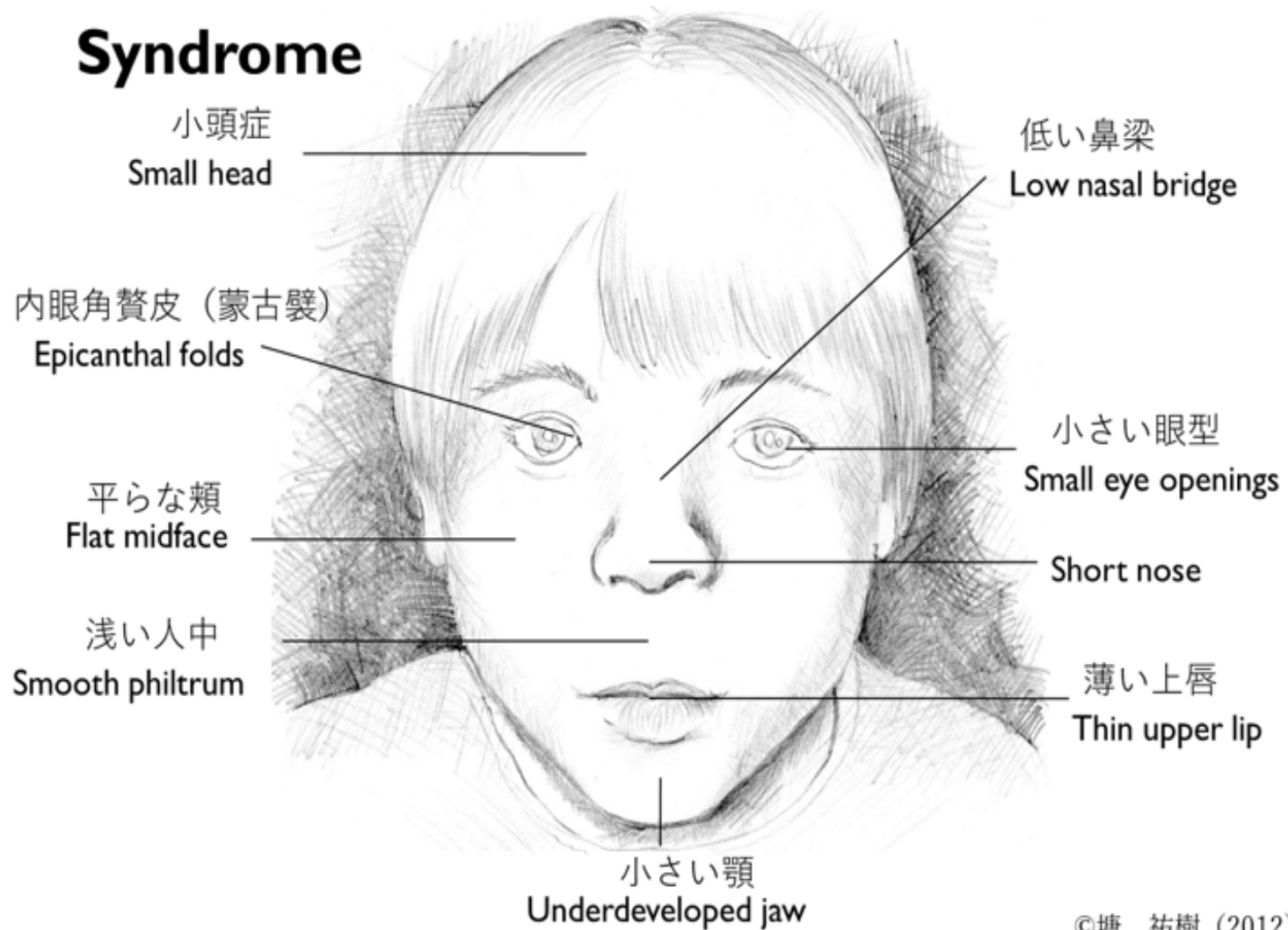
アルコールと妊娠

- 胎児性アルコール症候群 FAS: Fetal Alcohol Syndrome
 1. 妊娠中の母親の飲酒
 2. 特徴的な顔貌
 3. 出生時低体重・栄養とは関係ない体重減少、身長と釣り合わない低体重などの栄養障害
 4. 出生時の頭囲が小さい・小脳低形成・難聴・直線歩行困難などの脳の障害非遺伝性の精神発達遅滞の最多の原因

- 胎児性アルコールスペクトラム

ADHDや成人後の依存症リスクなどより広い範囲での影響がみられる

Fetal Alcohol Syndrome



Bさんの場合

買い物依存症

- 父母と3人暮らし。兄あり
- 父は会社経営をしており、何時も厳格。母も父からどなられるなどあり。本人は父に叱られるのを怖がって父の勧める大学に進学し、卒業。服飾関係の会社に勤めたのちフリーでジュエリー販売の仕事をしている。営業成績は優秀で多忙なスケジュールである。
- 小さいころからこずかいをもらうこともなく、必要なものもそのつど母に買ってもらっていた。
- 大学時代から洋服を買うようになり、アルバイトをしてたくさんの服を買って楽しんだ
- OL時代にも買い物はつづき、クレジットカードのキャッシングを利用した。
- 25歳のときに付き合った男性と結婚の話がでたが、父が反対し、むりやり破談となった。このころから買い物がエスカレート
- フリーで仕事をするようになってさらに高額の服を購入するようになり、消費者金融からの借り入れ、4社のクレジットカードを利用し、総額800万の借金となった。いよいよ支払いが追い付かず、督促状が届いたことで母のしれるところとなった。

治療経過

- 診察では本人は買い物へ衝動のコントロール不能を認め、買い物依存症の背景として父への恐怖と恨み、経済的依存、母との共生的関係（実家を出ることができず、家事等はほぼ母が行っている）が確認された。
- クレジットカードの使用停止や自己破産のための弁護士との面談、家計簿をつける練習、精神療法で依存症に至った心理背景を聞き取り、心理的問題へのケアをおこなった。
- 母に対し、本人とは別に面談を続け本人への共感、感情理解を求め、一方、金銭管理や家事等生活の自立を促すよう助言
- 母の努力もあり、一年ほどで本人と母との距離が徐々にとれるようになり、家事の分担をしたり、自立に向けての準備を始める。

治療経過

- 母の本人への対応が変わったことで徐々に本人との関係性に変化がみられる。
- 母の通うお寺の勉強会と一緒にかようようになり、そこから同世代の友人ができる。
- 母のこともよく知る幼馴染の女性のサポートにより自立を目指す目標ができる。
- 受診から2年で一人暮らしに移行。
- 現在は母のみ3か月に一度相談に見えているが本人は安定した生活をしているとのこと

症例から学ぶ女性の依存症

- 仕事をもち、一見優等生で会社等では自立しているように見えるが、心理的には未熟で精神的葛藤の逃げ道として物質や行為依存が出現
- 特に同性の親（母）に対し、つよいコンプレックス（完璧な母からの期待、自我の確立の挫折）逆に父に支配される母への同一視や不自由な女性像の刷り込み

Cさんの場合 薬物依存症

- 北海道出身。父は整形外科医 母は専業主婦。弟あり。母は鬱で精神科に通院。情緒的に不安定で小さいころからひどい叱られ方をした。学校の成績にもうるさく常に高い成績を求められた。
- 実家から離れたい一心で東京の大学に合格し上京。
- これまでの実家でのせいかつと打って変わって夜遅くまで友人とつれだって遊ぶことが増え、クラブ通いが日課となった。最初は友人のすすめでマリファナ その後 MDMA LSD等の脱法ドラッグ、24歳ごろに覚せい剤を使用するようになった。

治療経過

- 25歳友人が逮捕されたことをきっかけに依存症外来を受診。ミーティングや、認知行動療法に参加した。自助グループでしりあった依存症の男性患者と付き合い始め、同棲。26歳で外来受診中断

治療経過

- 5年後久しぶりに外来に現れた。31歳
- じつは当時マリファナ、アルコールは通院中もとまっておらず、クラブ通い時代の友人宅に遊びに行っては使用を繰り返していた。
- 29歳のときに同棲していた彼の子供を妊娠したことが判明。それを機にきっぱりとマリファナ、アルコールをやめた。病院にもいかなかったので死ぬ気で離脱をしのいだと。
- 30歳で女兒を無事出産。現在子育て中と。結婚して夫は一生懸命働いてくれている（依存症時代の借金をかえしながら生活はきつみつである）
- 実は最近またアルコールが始まった。外に出るのがこわくて電車にのると誰かが自分を見張っているような気がする。買い物に行くのも緊張してそれでお酒を飲んでしまう。
- 実は1年まえからほかの精神科に通院しているが薬物使用のことは話せないのうつ病という診断になっている。
- 覚醒剤使用の後遺症と思われる被害妄想、対人恐怖になやまされての再受診。周囲に子育てを相談できる知り合いもない。母は頼れない

治療経過

- 抗酒剤を内服し、アルコールを止め、被害妄想、対人恐怖に対し少量の抗精神病薬を処方
- 地域の子供家庭支援センターを紹介 保健師さんへのTEL相談、子育てママグループミーティングを活用
- こどもが幼稚園に入る際にはママ友づきあいへの不安が強くなった。自分が精神科に通っていることがばれたらどうしようなど

- 半年ほどで仲良くしてくれるママともができ、保護者会の役員を（最初はとてもしやがっていたが）引き受けることができた。
- 子どもが小学校に入学し、家計を助けるため清掃のアルバイトを開始。まともに仕事をしたことがないため当初は自信もなく非常に緊張がつよかった。自分は精神病で健常者のひとから変な目で見られるのではないか、ほかのひとと同じようにふるまえるか自信がないという。
- 仕事場でさまざまな人と働き、じぶんより明らかに非常識で変わった人もいてそれでもなんとか働いていることを知り、徐々に自信を感じられるようになった。
- 通院再開から5年目、現在は抗酒剤をやめ、徐々に精神科薬も必要なくなり、半年に一度の通院

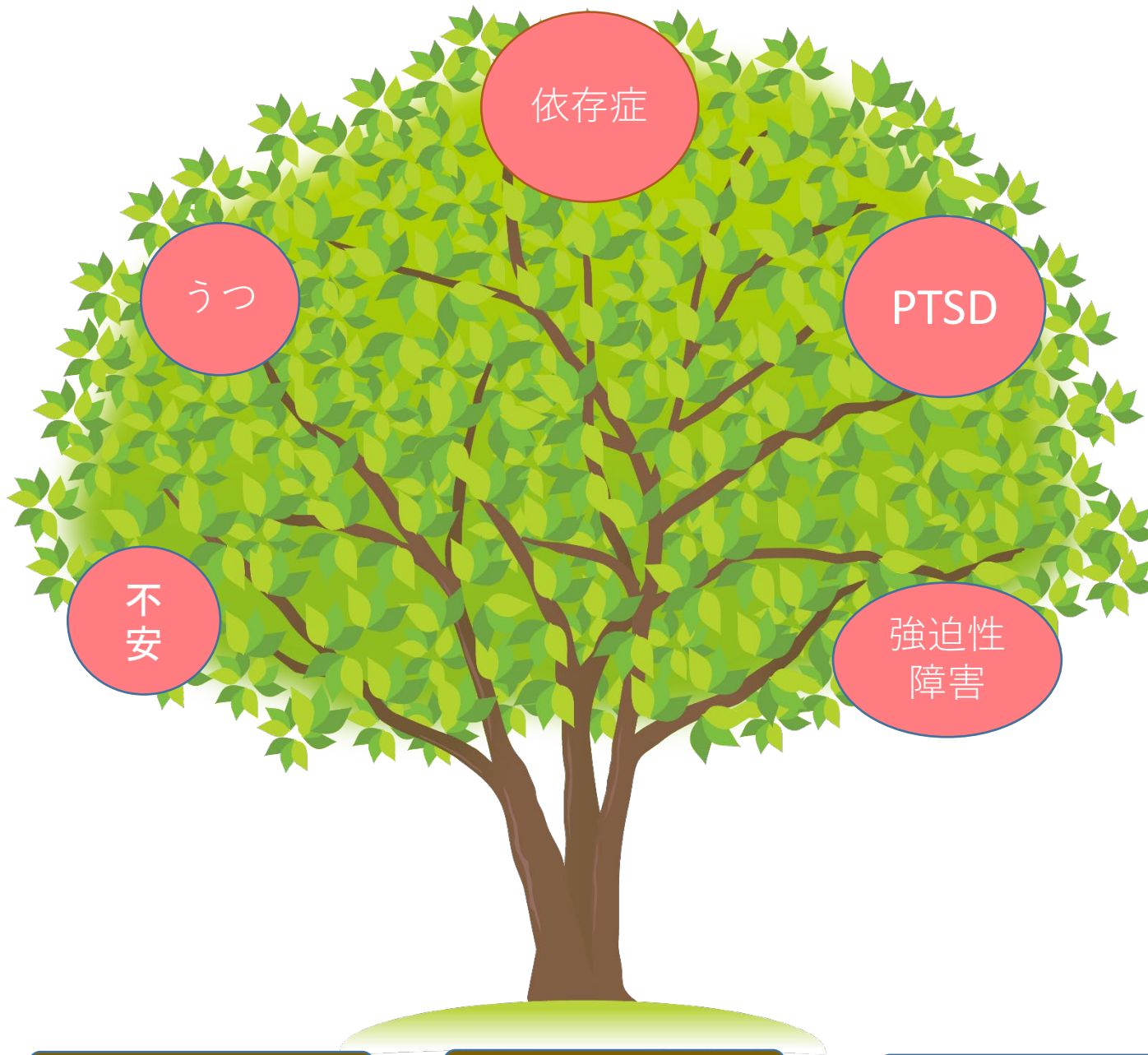
症例から学ぶ 女性依存症

- 自分に自信がない、 低い自己肯定感
情緒不安定な母からの心理的虐待経験 社会経験の少なさ
- 後遺症の出現
- 社会からの孤立
自助活動を通じた仲間とのつながりや地域支援の重要性
- 仕事と子育ての両立

女性依存症に併発しやすい 精神症状

- 摂食障害やうつ病などの精神科合併症が男性より多い。気分障害は男性が8%なのに対し女性は16.8%。30歳未満の女性依存症者の約7割に摂食障害が併発。
- 不安性障害、強迫性障害の合併も目立つ
- 生育歴において性的・身体的虐待の経験を有する割合が高い。
- 依存、嗜癖対象から離れたのちの社会生活を送るうえで併発する精神症状のケアを行っていくことが大切。
- 基本的には依存症治療が優先されるが、場合によっては併発精神疾患の治療を優先するほうが治療がうまくいく場合もあり

依存症の背景



家庭環境

虐待 ネグレクト

孤独

差別

いじめ